

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町として老人活動の場としての受け皿への助成が必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	高齢社会に対応した団体として必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	一定年齢以上の高齢者としている。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	活発に活動しており地域活動への参加も積極的である。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	活動がマンネリにならないよう新たな取り組みを自発的にできるよう支援する。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	地域に根ざした老人の活動の場が失われる。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	できるが、毎年のように補助額を削減してきている。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	人件費はない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	クラブごとにまちまちだが、所得の少ない高齢者としては適正と考える。

改善

改善策	1次評価	妥当性	老人活動の受け皿としてまた、高齢社会の状況において必要である。
		有効性	地域に根ざした団体の代表として貢献しており、今後も地域の事業に参加していく団体なのでその成果が期待される。さらに、地域支援事業の牽引者としての役割も期待している。
		効率性	繰越金を把握していく必要もあるが、年々削減してきている状況である。
	課題に向けた改善策	関係機関と連携を取り、休止している老人クラブの再始動を検討。	
2次評価	妥当性	1次評価のとおり。	
	有効性	各地域において高齢者活動が生きがい対策、地域貢献等につながっていくものとする。今後も支援をしながら事業を実施していくこと。	
	効率性	補助の交付基準に基づき適正に執行すること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。